



2010年5月15日 発行

2010年春号

<第11号>

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/下野英世 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881 FAX06(6556)0882 works-union@y3.dion.ne.jp http://www.v-aid.org/union/

「二人部屋と

一人暮らしについて」

私は、思うのですが、  
今までの、ケアホームと  
ちがいで、支援をもらいな  
ながら、一人で自立、  
するためにある、

一人部屋なのです。

そして、自由な生活を、  
たのしめることが、できる  
よい所です。

一人暮らしになると  
自分一人で

責任を、もって、

生活をするように、なり

経済力や、

生活力がついてくる。

お金の方を、自分で

考えてやりくりをする、

大人としての、

自立ができるのです。

大人としてのたのしさが、

できる、よい所です

個人的な、ことですが

料理が、できることに、

挑戦したい、私です。

私の、思っていることを、

かきました

みなさんの意見を

きかせて、下さい。

池田 憲治

# ケアホーム

## <ユニオン>

### 地域で暮らす

ワンルームマンション型ケアホーム

#### 【サンリット】

なぜ一人部屋での支援をはじめたのか。

ケアホーム(ユニオン)利用者

の声をきっかけてした。

彼女は、親元から離れる

ことを余儀なくされ、ユニ

オンでの生活を始めました。

当初は、ユニオンの生活

に馴染めず、盆や正月の長

い休みには必ず「お母さん

に会えるかな」と母と一緒

に暮らしたいという想いを

漏らし、家を飛び出すこと

もありました。

しかし時間と共にユニオ

ンの生活にも楽しみを見つ

け、平日の夕方は銭湯やジ

ムに行ったり、休日は余暇

に出かけたりと、ほぼ毎日

ヘルパーや職員と一緒に、

何らかの活動をして、生活

を充実させていきました。

住居は2DKの二人暮らし。

自分専用の部屋はあり

ますが、トイレ・風呂は共

有です。彼女なりに、同室

者と上手くやろうとしてい

ましたが、互いの生活観の

違いから、何度かトラブル

になり、部屋や同室者を代

えて調整を計りました。し

かしそれで、共同生活の中

で起こるトラブルそのもの

が、根本的に解決したわけ

ではありませんでした。

そしてある時、彼女は限

界に達しました。「もうあ

の人は住めない」「一人

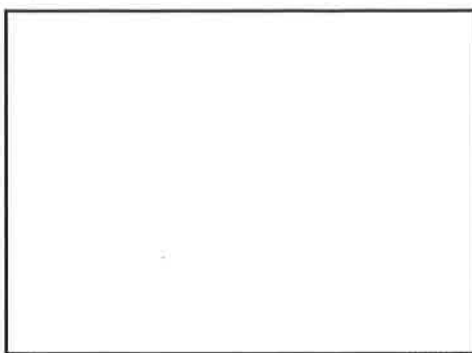
で暮らしたい」と、必死に

職員に訴えてきました。

彼女の願いにどう応えよ

うか職員は悩みました。共

同生活が原因で起こるトラブルの解決に、部屋替えや同室者の交代では限界がありました。ケアホームに入居して7年、細かい問題はあるものの、自分なりの生活を獲得している彼女です。職員やヘルパーが近くで支援しながら、彼女の望む生活を叶えることは、本当にできないのでしょうか？



メゾンと同じです。自分の空間を大切にしたいという声は、メゾンと共有の生活に、窮屈さを感じていました。そんな利用者の声にこたえるため、職員は何度も話し合い、次のような条件で、物件探しを始めました。

- ①職員が24時間常駐できる事務所と、利用者が集える食堂を造れる広いスペースのある物件。
- ②家賃は生活保護受給者が居住可能な4万2千円まで。
- ③常に連携ができるよう、メゾンの近くにある物件。
- ④利用者増員を可能にするため、ワンルームマンションで20室以上の規模。
- ⑤利用者居室に、内線電話の取付が可能。

リット)に移ることとなりました。きっかけとなった彼女はというと、結局サンリットには移りませんでした。理由は職員や居住者との人間関係が密なメゾンのすぐそばに居たいから。

そして、毎日ヘルパーの支援をうけながら、メゾンのすぐ近くのワンルームマンションに住むという新たな生活を選びました。利用者を支援するにあたり、住環境というものの大切さを感じます。一人一人が満足できる生活とは。2LDK型？ワンルーム型？近くの一人暮らし？利用者が選択できる住環境、支援を模索していきたいと思えます。

実はこの声は、彼女だけのものではありませんでした。メゾンとは別のもう一つのケアホーム・アスクは、「できる限り自分で暮らしたい」という利用者の思いで誕生しました。自分だけの時間が多いアスクですが、2LDKの二人暮らしは、

早速、一人暮らしに興味がある利用者、その保護者に物件を見学してもらい、9名がこのワンルームマンション型ケアホーム(サン

次に必要なのは、常時職員、ヘルパーの支援が必要な方へのケアホーム。次の課題に向けて、新たなケアホームを創造しています。

(松川)

### ユニオン流「一人暮らし」の支援

30年も昔の措置の時代、とある入所施設に着任した時、障害程度も異なる何十人もの人々の集団生活に、違和感と共に「生活の場というよりは、生かされているだけの場。」「ここで生活することは、自分にはできない。」「自分も住んでみたい生活の場を提供したい。」と感じたことを今更のように思い出す。

30年の月日の流れの中で、措置の時代から利用の時代へと、福祉の制度は大きく変わり、地域社会で生活する人も増えて来た。

障害を持つ人の地域生活を支える制度は、「グループホーム」や「ケアホーム」と「居宅介護」の制度。

その制度を活用しながら、私たちは、どんな「地域生活」を提供することができのだろうか。

我儘な私自身でも、「ここでなら、生活してみたい。」と考えられる生活は、提供できないのだろうか。

特に知的な障害を持つ人の場合、地域生活の基盤となるグループホームやケア

ケアの提供。

特に知的な障害を持つ人の支援にとつて重要な「悩みの相談」や「ちよつとした助言」は、サービスとして規定されておらず、お金にならない。

地域生活を謳いながらも、地域社会においても「集団生活」のみしか想定していない「障害者自立支援法」の不備と、日本という国における福祉の貧困性を感じながら、無理があるのも承知の上で、彼らの「願い」に寄り添うために、昨年の春、ワンルームマンション「サンリット難波西」の数

室と、食堂・事務所スペースを確保し、「居宅介護」の制度を使つての「一人暮らしの支援」へと乗り出した。

始めて半年後、「食堂などの共有部分が有れば、ワンルームマンション等を使つてのケアホーム・グループホームの運営も可能。」との通知を受け、「ケアホーム」としての運営に切り替えた。

さて、私たちの目指すの

は、地域生活の「最後の砦」としての支援であり、24時間365日の安心と贈り付きの「一人暮らし」。

そこでの「職員の支援のスタンス」は、利用者主体で、指導的であつてはならない。

保護者の皆さんには、利用者の生活に「もう少し介入して欲しい。」とご要望を受けることも多々ある。

しかし「私たちの提供する生活支援」は、それぞれの利用者の「自由な楽しい暮らし。」を一人ひとりが創り上げていくことの支援であり、一般的に「望ましい生活リズム」を身に付けて貰うことに主眼は置いていない。

職員として、一人ひとりの「利用者の日常生活」の「利用者は多々有る。」

しかしその生活が、大きくぶれない限り、「目を瞑つて、見過ごしてあげる」ことも重要と考えている。

一人ひとりの生活を、じつと見守りながら、どうしてよいのか分からず困つて

いる時に、「そつと支える。」。そういう支援を心がけたい。決してユニオンは、一人の人として地域社会に溶け込むことを目標とした「自立と自律」を目指した生活支援は、旗印としていない。

次の段階を目指したい人は、ふさわしい支援機関につなぐ。

これが、われわれの支援の範囲であり限界。

支援の対象と範囲を限定することで、我々にしかできないユニオン流支援の、あり方を磨いていきたい。

ワークスユニオンが目指すのは、会員の皆さんへの「生涯に亘るトータル支援」。還暦を迎えた利用者も一人二人と増加している。

また、24時間密度の高い支援の必要な人も多い。

今後、障害が重くても、老境に達しても安心して過ごせる住環境の整備も必要。次の目標に向けて、さあ頑張ろう。

(南石)

### 保護者新年会にて

ワークスユニオンは、隔奇数月に保護者会を開催しています。毎年一月は、保護者職員合同の新年会です。平成二十二年二月三〇日(土)ホテル大阪ベイタワーに於いて、太陽がふりそそぐ好天氣に恵まれて新年会が催されました。

七一名のご出席を賜り、全員に景品を準備しています。

何が当たるかお楽しみ！景品の買入物は保護者会役員の役目。「どの人に当たるやろう？」と思いを寄せつつの買入物もまた楽し！

今年初の試みとして、各事業所の子供達の仕事、日常生活の様子ビデオ鑑賞があり、わが子の逞しい姿を目の当りにして感激の思いとの感想で好評でした。くじを引く順番は、日本の首相を歴代順に答えるゲームで、日本の首相の交代の著しさが感じられたひとこまでした。

そしてついに運命の瞬間。くじ引きで景品ゲット！引

き当てた大小袋の中身は、集合写真撮影時に皆さんにご披露し、和気藹々と最高の盛り上がりです。

楽しい時の過ぎるのは早いもので、最後は大阪の一本締め。皆々様のお力添えで大盛況にて終えることができました。

今年八月には、社会福祉法人格を取得して十周年を迎えます。

下野理事長様を始め、理事・評議員の皆様、多くの方々のあたたかいご支援を頂きまして、本当にありがとうございました。感謝いたしております。

「お母さん！お子さんは、最後まで面倒みますからご安心ください！」と、あふれる笑顔で包み込んでくださった、今は亡き山川宗計様が目指されたワークスユニオンは、その言葉通りの安心して子供がお世話になれるところでございます。明るく元気に笑顔で生きることが、私達のご恩返しと頑張りましょう！

(三宅ふさ野)

### 職員紹介

#### 今藤由佳理

専門学校在学中から、ユニオンのヘルパーとして活躍し、利用者との関わりを楽しむ中、ユニオンの支援に興味を持ちました。

「職員から指示をされるだけでなく、もつと自分で考えて、働きたい。」そんな思いから職員になり、現在はサンリットの責任者として、利用者の生活を支えています。

親しみやすい、元気いっぱい、のキャラクターですが、その一方、実はお茶と書道をたしなむ大和撫子。

おいしいものを食べている時と、相手の喜ぶ顔を見る瞬間が、至福の時だと話す彼女。利用者の豊かな生活と未来を考えながら、幸せそうに大福をほおばります。

#### 平井宏和

大学時代は心理学を専攻し、「人」を考え、知ることが好きだという彼。

在学中から、ガイドヘルパーや、夜間宿直職員としてユニオンと関わり、六年が経ちました。今年からは職員となり、主に、短期自立体験を担当しています。

「責任の重さを感じて、緊張しっぱなしです。」と話す彼の倒すべき相手は、電話の向こうのお母さまにドキドキしてしまう、口下手な自分だそうです。

目指す男は、新撰組の土方歳三！信義のために戦い抜くサムライになるため日々、修行中です。「信頼される職員になりたい。」と秘めたる想いを語ります

(宮崎・野々村)

### 編集後記

▼Sさんはかつて通勤寮で自活訓練を受け、地域で一人暮らしを始めました。しかし、孤独な生活から夜も眠れず幻覚幻聴が現れ、2ヶ月でその生活を断念しました。▼そんなSさんが、ユニオンのケアホームで支援を受け十年。再び「一人で暮らす」と言い出しました。▼一人暮らしの辛さを人一倍知っているSさんですが、職員の幾度ともない問いかけに「今度は大丈夫」と笑って答えます。その言葉には、揺ぎ無い決心とユニオンの生活で培ってきた自信と安心感があるようです。▼この四月、メゾン近くのワンルームマンションでSさんの新しい生活が始まりました。先には何があるか分かりませんが、できる限り彼らが望む生活を支えていきたいと、職員は心新たに思いになります。▼遅ればせながら、機関紙発行を再開しては止まり、を繰り返していることをお詫び致します。定期的の皆様の手元にお届けできるよう、編集委員一同、努力致します。

(S)